

行雲流水

No.71 令和3年7月12日発行

「思い」を伝える

校長 寒河江 正人

ふと、気が付いたら、この「**おたより**」は、**71号**を迎えていた。

校長は、通常、生徒諸君に直接授業をすることは稀な^{まれ}ことだ。

保護者の皆様や本校の教職員とじっくり話すには、**時間**にも**場**にも、限りがある。
だから、このおたよりが、校長の「授業」の一つだと考えている。

「**授業**」は、なるべく毎日したい。

1学期の授業日は、今日で**66日目**。(残りは、あと11日)

ほぼ**毎日1回以上**は「**授業**」をしてきたものと、**寛大な心**でお認めいただきたい。

この「**授業**」は、**生徒諸君**を対象とする場合もある。

その先にある**保護者の皆様**を対象として伝えたい場合もある。

本校教職員だけを対象にする場合もある。**すべて**を対象とする場合もある。

「それほど明確に分けてはいない」というのが、本当のところだ。

この「**授業**」で伝える内容は「**ものの見方・考え方、生き方、学び方、働き方**」等である。
文科省の「学習指導要領」に基づくつもりはないので、「私見」に満ちているかもしれない。

校長として、みなさんに伝えたいことは、たくさんある。

いつも考えている。ずっと考えている。でも、覚えていられない。すぐに忘れてしまう。

校長室のデスクの上、自家用車の手元、自宅の茶の間・ベッドの枕元、手提げの中などに

「**裏紙**」を無造作にクリップでとめて、ペン・鉛筆を添えておく。

「**これっ**」と思ったら、どんなときでも書き留める。朝起きたら枕元に「**ニョロニョロ**」

「**グジャグジャ**」の**メモ**になっていることも、しばしばである。

人のものの見方や考え方は多様だ。だから、私と同じ考えでなければならないことはない。

ただ、校長の「**思い**」や「**考え**」に触れて、みなさんの「**思い**」や「**考え**」、「**気付き**」や

「**学び**」が「**広がり、深まり、高まるきっかけ**」になれば、校長として至上の喜びである。

たとえ、へたくそな文章であっても、「思い」は、「言葉」にして伝えていきたい。